

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530304

研究課題名（和文） 多元的資本主義世界の成立過程—世界貿易統計の基礎的研究

研究課題名（英文） The formation process of pluralistic capitalism—Fundamental study of global trade statistics—

研究代表者

堀 和生 (HORI KAZUO)

京都大学・経済学研究科・教授

研究者番号：60219201

研究成果の概要（和文）：世界資本主義の形成は、二つの段階をへて成立した。まず、19世紀に英国の工業製品が世界市場に輸出され、各地域に工業技術が伝播した。そうすると、西ヨーロッパと北米地域において英国工業製品に対抗する形で、資本主義的な国民経済が形成された。しかし、この国民経済に立脚した資本主義は相互に対抗的な措置をとったので、両大戦間期に世界経済全体の発展は停滞した。つぎに、第二次大戦後になって、IMF・GAT等の制度によって障壁の少ない世界市場が形成され、地域ごとの異なる条件を活用した多様な資本主義の成立が可能になった。これが、20世紀後半に世界資本主義が持続的に発展して要因である。

研究成果の概要（英文）：

Until now, world capitalism has passed through two stages.

First, British industrial commodities were exported to the world market in the 19th century, and industrial technology spread in every region. Through this, while competing with imports of British industrial commodities, capitalist national economies were formed in Western Europe and North America,. Since the capitalism based on these national economies had to protect their own interests, they blocked trade with other countries, and as a result, development of the world economy stagnated after the First World War.

Next, after the Second World War, IMF-GATT, etc. were established. Then, since the world market with few barriers was formed, capitalism of various types connected with the markets of advanced countries were formed in underdeveloped areas, depending on the different conditions in these areas. In this way, from the second half of the 20th century until now, the world economy incorporated the various forms of capitalism established in each region.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：東アジア経済史

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：多元的資本主義、東アジア資本主義、パクス・アメリカーナ、

1. 研究開始当初の背景

近代世界経済の捉え方で、注目すべき研究潮流として次の2つが注目される。

第1は、世界経済秩序を、19世紀の英帝国を中心としたものから20世紀後半の米国を中心としたものへの転換、すなわち覇権の移行過程として捉えようとする研究である。これについては社会科学のあらゆる部門で膨大な蓄積があるが、貿易に関して比較的最近のものとして、山本和人『戦後世界貿易秩序の形成』1999年、前田啓一『戦後再建期のイギリス貿易』2001年、等をあげることができる。それぞれ一次資料を駆使した労作であるが、両時代の移行はあくまで英米の角逐として捉えられており、世界を構成する其他の国・地域は殆ど脇役にされるかあるいは無視されている。非欧米地域の歴史研究が急速に進んでいる今日において、世界史の段階的な移行を覇権国の相互規定関係だけで論じるのは時代遅れの感をぬぐえない。欧米や日本のような先進資本主義国だけではなく、非欧米地域を広く組み込んだ世界史像の構築が求められている。

第2は、日本において活発なアジア交易圏論の研究である。これらの研究は、欧米勢力がはいつてくる前にアジア地域に独自の経済圏が存在しており、欧米の経済活動もその在来的な条件に規定されていたと捉える。この学派の代表である杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』1996年は、アジア内部における相互貿易の発展が相対的に速く独自の市場を形成させており、そのアジア内市場の拡大こそが日本、中国、インドの工業化を引き起こしたと結論している。アジアの工業化を1国単位で把握するのではなく、地域内の相互関係を重視する視角は画期的である。しかし、杉原の貿易研究は、貿易総額についての検討

に止まっており、貿易品の具体的内容に立ち至っていないので、工業化を論ずるのには飛躍がある。また、アジアの特徴であるとしてあげられている諸点が、実際に他の非欧米地域と比較研究されているわけではないので、立論自体が根拠のない仮説に止まっている。

いずれも、非常に刺激的な研究ではあるが、同時に限界も有している。

2. 研究の目的

本研究は、19世紀半ば資本主義が真に世界を包摂した時点から、米国ドルの弱体化と第一次オイルショックによって世界経済が新しい段階に入った1970年までの100年あまりについて、世界経済の相互関係を長期的に分析することによって、欧米地域以外にさまざまな資本主義が生まれてきた経路と要因を解明することを意図している。19世紀から20世紀にかけての資本主義世界経済は、英帝国の興隆と衰退、米国の台頭と覇権の移動、パクス・アメリカナの成立と弱体化、過程で捉えるのが通説である。しかし、それらはあくまで英国と米国を中心としたフレームワークに止まっており、非欧米地域はどこまでも2つの覇権体制に組み込まれる対象としてしか扱われていない。そこで本研究は、日本や東アジア、インド、南米等の非欧米地域における資本主義の形成に焦点を当て、それらの発展過程を長い歴史的なスパンで比較分析することによって、多面的な資本主義世界史像の構築することをめざしている。そのことは、日本資本主義発展の理論を豊かにするとともに、日本を初めとする東アジア経済の現状を深く理解することと繋がる。さらには、資本主義の形成と発展の一般理論にも新しい素材を提供することができる。

3. 研究の方法

本研究は、これらの問題意識から、19世紀末から日本を起点として資本主義が東北アジアに拡大していった過程を、世界的なレベルで位置づけるような研究が必要だと認識した。このような資本主義世界を歴史的構造的に把握しようとする方法として、本研究では世界貿易の貿易大データベースの構築という基礎作業に取り組むことにした。つまり、世界の貿易統計を収集してコンピュータに入力整理して貿易データベースを作成する過程と、それを新しい手法で解析することである。

貿易統計の収集は、国際的な機関が作成したものと各国政府が独自に作成したものがある。前者として、国際連盟の *International Trade Statistics* の 1924-1938 年、および国際連合の *Yearbook of International Trade Statistics* の 1953-1961 年があり、1962 年以後は国連のホームページ (UN comtrade) に掲載されている世界貿易の電子統計を活用した。これらに収録されている国の数は 200 を超えるが、そのうち領域が戦前と戦後とで近似している約 80 の地域・国を選んだ。後者の国ごとの統計では、まず、東アジア、東南アジア、南アジアを集中的に収集した。日本、朝鮮・韓国、中国、台湾、満洲国、香港、フィリピン、タイ、仏領インドシナ、蘭領東インド、英領マレー、インドの貿易統計を集めた。その放火の国としては、米国、英国、ドイツ、フランス、スイス、オーストラリア、ニュージー、南アフリカ連邦、等を集めた。残念ながら中南米諸国の統計書は入手できなかったため、研究書とインターネットで得られるものを使うことにした。これら 80 カ国 21 年間の簡略版貿易統計と 10 カ国あまり 100 年間の詳細版貿易統計をコンピュータに入力することにより、大規模の貿易データベースを構築した。

本研究では、こうして構築した世界貿易データベースの分析に、新しい手法を導入した。一つは貿易世界各国累年の貿易結合度を計測することである。2 国間の経済的結びつきを測る指標として貿易結合度の有用性は認められているが、この指標を 19 世紀にまでさかのぼって歴史的に計測した研究はまだない。A.Maddison の世界貿易総額に依拠すれば、1880 年代以降のすべての貿易結合度を算出できた。このような世界各国の相互間の貿易結合度をさらに統計的に処理すれば、ヒルガートがやったような 7 地域間の貿易決済網の析出というような素朴なものではなく、100 年間にわたる世界貿易の結合の変遷と多様な結節点を明らかにできる。

また、産業連関については、アジア経済研究所と経済産業省が共同で開発した経済指標である貿易産業分類表 (BEC 分類 経済産業省『通商白書』2005 年版) を使用した。これは、貿易を国際貿易標準分類 (SITC) による商品分類を、産業過程の用途別に再分類したもので、現在国際的な産業連関を把握分析するために使う手法である。今日この指標によってアジア内の国際的な分業構造が明らかにされているが、本研究は 1880 年からの 100 年間にわたる歴史過程において、主要な国地域間の貿易に対してこの BEC 分析の手法を使うことにした。本研究の代表者は、これまですでに BEC 分類を活用して戦前期日本・朝鮮・台湾等の密接な産業連関の具体相を明らかにし、分析に関するノウハウを蓄積している。先に作成した世界貿易のデータベースを、この手法で分析することによって、これまでの「一次産品」と「製造品」という分類では対応できなかった、工業内における多様な次元での分業関係を容易に数量的に析出することが可能となった。

4. 研究成果

一つは、この大規模な貿易統計データベースの構築事態が成果である。長期にわたる世界貿易の趨勢を、概括的に把握できる。とりわけ、東アジアについて100年以上の時間について、輸出入商品別と相手国別のマトリクス・データベースになっている。このような長期データベースは東アジアについて初めて作成されたものである。これは日本経済・経済史の研究や東アジアの経済・経済史の研究のみでなく、世界のアジア経済・経済史研究に有益な資料であると思われる。これは英語版の資料集収にしてすべて刊行するつもりである。貿易統計データベースも付録のCD かインターネットによって公開する予定である。

二つめはこの大データベースの解析によって、世界経済のなかで資本主義的生産様式が拡大して、現在の多元的な資本主義世界が成立する過程を明らかにできたことである。今日までの世界資本主義の捉え方には、2つの方向性がある。第1は、資本主義は国民経済を基礎として初めて成立するものだとし、世界資本主義を資本主義国民経済の束として捉えるという考え方である。第二は、逆にそれを全く否定して、資本主義とははじめから全世界的な体制として成立したとする世界システム論の捉え方である。

本研究が貿易統計から導き出した世界資本主義の歴史はそのいずれとも異なる。資本主義の成立過程における国民経済の意義を十分に認めるとともに、世界的な資本主義の発展段階がもつ意義をあわせて重視する認識だからである。その世界認識を、デッサンすれば次のようになる。

今日まで世界資本主義は2つの段階をへてきた。

まず、19世紀に英国の工業製品が世界市場

に輸出され、各地域に工業的な技術が伝播した。そうすると、ヨーロッパ北米地域において、英国工業製品の輸入に対抗しながら資本主義的な国民経済が形成された。この国民経済に立脚した資本主義は、各国相互に対抗的な措置をとったので、第一次大戦後に世界経済の発展は停滞した。日本は一方では例外的に世界市場に輸出を伸ばしたが、他方できわめて閉鎖的な植民地圏の拡張をはかっていた。この段階の後発資本主義国は、世界市場のあり方から来る制約によって、その一定以上の発展はきわめて困難であった。

第二次大戦後には、戦前期の国際関係のあり方に関する反省から、米国主導によって新たにIMF・GAT等が設立された。これによって、障壁の少ない世界市場が形成されたのであり、国民経済の枠内のみでなく先進国市場に依存した資本主義の発展が可能になるという条件が生まれた。つまり、後進地域では先進国から資本・技術を輸入するだけではなく先進国市場に向かって工業製品を輸出することによって資本主義を発展させるという新しい条件を手に入れたのである。もちろん、すべての国がこのような工業製品輸出国になれたわけではなく、それは今日においても少数の国に止まっている。しかし、日本、韓国、台湾について、東南アジア、中国、インド、中南米の幾つかの国は、それぞれの国・地域の異なった自然的・社会的な条件を活用して、多様な類型の資本主義を造り上げつつある。その点で、19世紀段階と20世紀段階の世界経済では、後発資本主義の形成の与える影響に決定的な相違があり、多様な資本主義の形成は20世紀後半になって初めて可能になったといえることができる。これは、資本主義の世界経済包摂の段階的な相違であると理解すべきである。

世界貿易の分析を通じて得たこのような

資本主義史像について、今後さらに多面的な考察を加え、その成果を世界に発信してゆくつもりである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

(1) 堀和生 「東アジアにおける資本主義の形成——日本帝国の歴史的な性格——」、『社会経済史学』査読有り 第76巻第3号 2011年2月 27～51頁

(2) 堀和生・木越義則 「開港期朝鮮貿易統計の基礎的研究」、京都大学上海センター『東アジア経済研究』査読有り 第3号 2009年3月 15～43頁

[学会発表] (計4件)

(1) 堀和生 「日本帝国の解体と戦後東アジア貿易関係の形成——2つの時代の統一的な把握をめざして——」社会経済史学会全国大会 2010年6月19日 関西学院大学

(2) Kazuo Hori, The Japanese Annexation of Korea from a Perspective of Economic History, Association for Asian Studies, Annual Meeting, Philadelphia 27, March, 2010

(3) 堀和生 「東アジアにおける資本主義の形成と世界経済」 社会経済史学会全国大会パネルディスカッション 2009年9月27日 東洋大学

(4) 堀和生 「東アジアの帝国主義と資本主義の発展——『東アジア資本主義論』構築の試み——」 社会経済史学会近畿部会夏季シンポジウム 2008年8月29日 大阪市立大学文化交流センター

[図書] (計2件)

(1) 堀和生・中村哲共編『日本資本主義與臺灣・朝鮮 帝國主義下の經濟變動』博揚文化事業有限公司 台北市 2010年 1～384頁

(2) 堀和生著『東アジア資本主義史論——形成・構造・展開——』第1巻 ミネルヴァ書房 2009年 1～410頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀和生 (HORI KAZUO)
京都大学・経済学研究科・教授
研究者番号：60219201

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし